

高等学校定時制課程におけるティーチャートレーニング

○式部 陽子

(奈良教育大学特別支援教育研究センター)

Key Words : 高等学校定時制課程、ティーチャートレーニング、応用行動分析学、特別支援教育

(目的)

高等学校にも発達障害等により支援の必要な生徒が 2% 近く存在し、全日制 (1.8%) よりも定時制 (14.1%)・通信制 (15.7%) に発達障害等の困難のある生徒が多く在籍している (文科省, 2009)。平成 26 年 4 月の障害者差別解消法施行に伴って公教育における「合理的配慮の提供」が義務となり、平成 30 年度から高等学校における通級による指導の制度化が予定されている。高等学校教員に対する発達障害の特性と支援に関する研修や「合理的配慮」に関する理解啓発の必要性が示唆されている (日野・熊谷, 2014) もの、効果的な研修方法に関する研究はみられない。

筆者はこれまで高等学校定時制課程において、教員に対するコンサルテーションおよび継続的な教員研修を行ってきた (式部・岩坂・井上, 2015; 式部・鳥居・井上, 2016)。

本研究では、高等学校定時制課程の教員を対象に、応用行動分析学に基づいた 2 日間のティーチャートレーニングプログラムを実施し、その効果を検証した。

(方法)

1 実施期間 : X 年 8 月 2 日、X 年 8 月 26 日の 2 日間

2 対象

(1)対象者 : 公立高等学校定時制課程に勤務する教員 10 名
(2)スタッフ : 臨床心理士であり応用行動分析学に基づく臨床経験を 10 年以上有している筆者が講義および演習の進行を行った。

(3)実施場所 : 対象者が属する定時制高校の図書室であった。

3 プログラムの概要

(1)実施回数 : 70~80 分を 1 セッションとして、1 日 3 セッション行い、2 日間で計 6 セッション実施した。各セッションの間に、5~10 分程度の休憩時間を設けた。

(2)スケジュールおよび内容 : 研修内容は、応用行動分析学に基づきながら学校での指導に関するテーマで講義を行い、少人数のグループ演習を行った (Table1)。

Table1 プログラムの内容

日程	講義テーマ	演習・ワーク
1日目	①オリエンテーション ストレスチェック	
	②生徒の行動理解	ワークシート
	③ほめ方・伝える指示の出し方 ④まとめ	ワークシート、ロールプレイ①
	⑤スモールステップの考え方	ワークシート、ロールプレイ②
2日目	⑥行動問題への対応 ⑦まとめ	ワークシート
	⑧まとめ	
	⑨ストレスチェック、アンケート	

4 評価

(1)新版 STAI 状態-特性不安検査 : 生徒への指導に困難を感じている教員が多い (式部・鳥居・井上, 2016) ことから、介入前後における教員らの不安状態の変化を調べた。

(2)「生徒の気になる行動」に関する出来事と認知の変化に関するアンケート : 思春期のペアレント・トレーニングプログラム (松尾・井上, 2013) で用いられたアンケートを参考に、生徒への指導でイライラや不安などの対応困難を感じる場面や出来事および「その時、心の中に浮かんでくる言葉」について記述してもらい、介入前後における出来事と認知の変化を調べた。

(2) 事後アンケート : プログラムへの満足度について「全くそう思わない(1)~大変そう思う(5)」の 5 段階で評定してもらい、プログラムで参考になった内容やプログラムを通

して気づいたことについて自由記述による回答を求めた。

5 倫理的配慮

本研究への参加は管理職の承諾を得て希望者を募り、研究趣旨及び個人情報保護について口頭で説明を行い、「研究参加承諾書」への署名により承諾を得た。

(結果と考察)

1 新版 STAI 得点の変化

2 日間ともに参加した 7 名の参加者における事前事後の新版 STAI 平均得点 (標準偏差) は、【状態不安: 介入前 45.00 (5.00), 介入後 36.29 (4.31); 特性不安: 介入前 51.14 (10.84), 介入後 50.29 (9.83)】であった。介入前後で対応のある t 検定を行ったところ、参加者の状態不安得点において有意な差がみられた ($p < .01$)。

2 「生徒の気になる行動」に関する出来事と認知の変化

参加者が生徒への指導においてイライラや不安を感じる出来事として、介入前は「授業中のスマートフォン使用」や「授業中の飲食」、「生徒からの暴言」や「授業中に騒ぐ」といった生徒の問題行動に関する場面が多く挙げられた。その時、心の中に浮かんでくる言葉として、「いい加減にしてほしい」「なぜだろう」「将来困るのに」といったものが多かった。介入後は、生徒の問題行動に関する場面で「すぐにやめろは難しいだろう」、「少しでも活動に参加させるにはどうしたらいいだろう」、「何か良い方法はないか」といった言葉が見られるようになった。

3 事後アンケート

参加者のプログラムに対する満足度を Table2 に示した。参加者のプログラムに対する満足度は高く、行動のしくみやほめ方、指示の出し方やスモールステップの考え方、行動問題への対応など研修内容の理解についても 4 点以上の得点を得た。最も参考になった内容として、「行動のしくみ」、「スモールステップの考え方」など行動理論に基づく具体的ななかかわり方が挙げられた。プログラムの日程や開催時期、1 日当たりの時間や生徒の夏季休業期間に実施したことについても概ね「よかった」との回答を得た。

Table2 参加者のプログラムに対する満足度

	設問	平均得点	標準偏差
1	講義はわかりやすかった	4.88	0.35
2	講義で聞いたことは、生徒にかかわる時の参考になると思う	4.75	0.46
3	演習やロールプレイは、生徒にかかわるとき参考になると思う	4.88	0.35
4	他のメンバーとの意見交換は参考になった	5.00	0.00
5	行動のしくみについて、理解できた	4.38	0.52
6	ほめ方について、理解できた	4.38	0.52
7	指示の出し方について、理解できた	4.38	0.52
8	スモールステップの考え方について、理解できた	4.50	0.53
9	行動問題への対応について、理解できた	4.38	0.52
10	これから先、生徒の問題に取り組んでいけると思う	4.25	0.46
11	このプログラムに参加してよかった	5.00	0.00
12	このプログラムに参加したことで、これから先、指導に関わるストレスが軽減すると思う	4.50	0.53

本研究における 2 日間のティーチャートレーニングプログラムにおいて、参加した教員の状態不安が低減し、教員らが指導の困難を感じている生徒の行動に対する認知の変容がみられた。また、プログラムに対する高い満足度が示された。今後はさらにプログラムを発展させ、データを蓄積していく必要がある。

(SHIKIBU Yoko)